

カトリック六甲教会 教会報

2014

3

No.507

空っぽになる

ダニエル・コリンズ神父

今年も3月5日の灰の水曜日から四旬節となります。

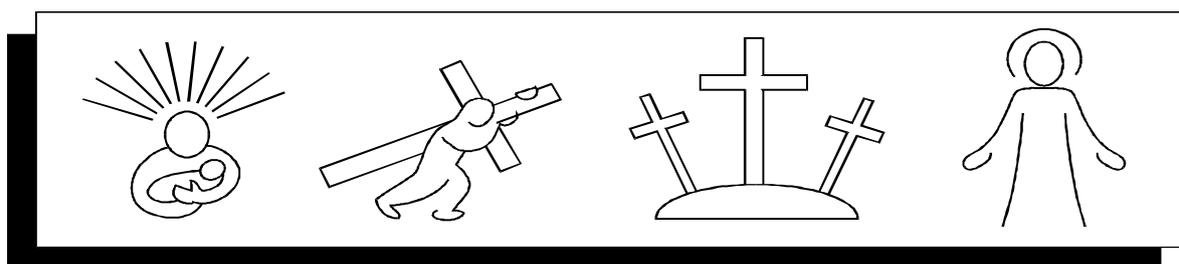
伝統的に四旬節には犠牲を捧げるということになっています。子供の頃は、チョコレートを食べないとか、映画は見ないとか、いろいろと考えていました。

さて、フィリピの信徒への手紙の中に「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。」(フィリピ2-6~7)とあります。神の子が人の子となる、ということはなんとへりくだった行為でしょう。神でありながら、人の世に入り、人間として暮らす、とはなんと何もかも手放した状態でしょうか。聖書にある「無になる」とは、原語をたずねるとギリシャ語では「空っぽになる」という意味です。

私の今年の四旬節のテーマは「空っぽになる」と決めました。空っぽになりたい！今日から復活祭に向かって「無となる」ように努力したいと思います。

どんな風に空っぽになるのか——人それぞれやり方があると思います。でも、イエス様は無となり、人類の歴史に加わって下さったのです。それならば、私たちもそうあるべきです。罪を悔い、過去を否定するのではなく、これから先を考えるために空っぽになるのです。私たちは復活のキリストに属する者です。ありのままがいいのです。

私は幼児洗礼なので洗礼の意識はありませんが、日本では多くの方が大きくなってから、ご自分の意思で洗礼を望まれたと思います。洗礼を頂いた時に戻ればいいのだと思います。“0(ゼロ)”に戻るのです。人生における成功・失敗ではなく、誇らしいこと・恥ずかしいことなど関係なく、厳しい・つらいではなく、喜びを持ち、“0”に戻って空っぽになる。そうしてご受難、ご復活を待ってみましょう。





最終回：

〔6〕守るべき秩序

信徒使徒職はいかなる場合、いかなる場所であっても必ず根底にキリストの愛に基づく正しい秩序において、活動が遂行されなければならない。本教令は、その秩序に二つの方向があることを指摘している。第一に、縦の方向における秩序。福音書の中で言われる教師として派遣された 12 使徒の後継者である司教（司祭）との一致における秩序である。司教たちは「あなたがたは、自分自身に気をつけ、また、群れのすべてに心を配りなさい。聖霊は、神がご自身の血であがないとられた神の教会を牧させるために、あなたがたをその群れの監督者にお定めになった」人たちである（使・20-28）。また 24 項で記されているように、教会の正当な権威による賛同のないものは、「カトリック」という名を持つことができない。つまり、カトリックの組織とは認めないのである。従って、信徒使徒職は縦の方向における秩序の一致、個人によるもの、組織団体によるものを問わず、すべて司教との一致において始めて神の民として教会の行使する使徒職となる。このことが信徒使徒職の本質的要素であると断言している。次に、横の方向における秩序は、すべての使徒職団体の目指す目的は、キリストの体の発展以外にはない。

使徒職の活動は、様々であっても目的は一つであるから、それぞれの組織団体相互間における、尊敬と一致の精神が育まれなければならない。また活動が全国的レベルで行われる場合には、聖職者（教区司祭・修道司祭）と信徒間の緊密な協力も必要であり、その為に各教区、また小教区に協議会を設置することが勧められている。それは使徒的活動を助け、信徒の種々の団体や事業の調整に役立つからである。この協議会の目的は、すべての信徒のための新たな養成機関になる。また本教令は、キリスト者のみならずすべての善意ある人々との協力と活動にも積極的になることを勧めている。

〔7〕使徒職への養成

使徒職の遂行における現実には、安易にできるものではない。そのためすべての信徒の心構えに必要な基本的養成プラス各人の性格や才能、周囲の環境や職業の場に応じた幅の広い、弾力性に富んだものが要求される。それはまた公会議の精神に則った養成でなければならない。その養成とは、次のようなことが挙げられるだろう。

- ①信徒はすべてが使徒のようになるよう養成する。
- ②信徒の養成は、司祭、修道者の養成とは異なる。
- ③信徒が世俗の生活から爪弾きされないように、現実社会の十分な理解が必要である。
- ④この養成は霊的生活にも重点を置く。
- ⑤信徒使徒職に必要な基礎的知的教養の育成をする。
- ⑥信徒各人の社会におけるバランスの取れた人間関係の育成をする。
- ⑦単なる理論的養成ではなく、「見、判断、行動」できる養成と、調和と均整のとれた人間性の養成をする。
- ⑧個人のための養成ではなく、神の民の一員として、キリストの肢体としての養成をする。
- ⑨養成の責任について、使徒職がやっつけ仕事に終わらなさないため、特に幼児期から青少年期にかけて、入念に養育する必要がある。
- ⑩キリスト信者の両親は、家庭にあって子供とともに祈ることを教えること、そして成長するにつれ子供が小教区の中で各人の与えられた能力を存分に発揮できるよう、家庭で、教会で続け

て養成することが大切である。それは成長した信徒一人ひとりが主の選んだ「選びの器」となるためである。

⑩援助手段として教会は、信徒に効果的な助けとなるもの、様々な集会、講演など企画する。

「信徒はとくに、自分たちによらなければ教会が地の塩となり得ない場所と環境において、教会を存在させ活動的なものとするよう招かれている」（教会憲章 33 項）。「それゆえ、聖なる公会議はすべての信徒に、主において次のように切願する。すなわち、今この時にあってより切実に信徒を招かれるキリストの呼びかけと聖霊の促しとに、自発的に、寛大ですぐにこたえる心の姿勢をもって応じるように、と」（本教令 33 項）。キリストの教会が、現代社会の中に力強く生きてその使命を完遂するためには、この信徒の働きがなければならない。本教令は、キリストの信徒として望まれるべき姿、信徒使徒職がいかにあるべきかを述べている。そして、その目的を「主ご自身、この公会議を通して、すべての信徒が日々いっそう密接に主に結びつき、主のことを自分のこととして（フィリ 2:5 参照）、主の救いの使命にあずかるように、すべての信徒に繰り返し勧めておられる。主は、ご自分が行こうとされるすべての町と所に、新たに信徒をつかわされるのである（ルカ 10:1 参照）。それは、時代の新しい要求に絶えず適合させるべき、教会の一なる使徒職の種々の様式と方法において、信徒が主の協力者となるためである。その労苦が主においてむなしくならないことを確信し、常に主のわざを励むべきである（I コリント 15:58）」と本教令の結びに呼び掛けとしてまとめている。

第二バチカン公会議は、時代と共に移り変わる使徒職について論じられたのではなく、望ましい使徒職、つまり、初代教会において行われていた使徒職に戻ろうとしているのである。それはまたキリストの教会が将来ともに益々活気ある「宣教する教会」となるためには、信徒の使徒職を重視した「画期的出来事」と呼ばれる公会議の精神を実践していくことでもある。カトリック教会の開発途上国ともいえる日本の教会が、今後どのようにこの公会議の精神を反映させるべきか、信者一人ひとりの前向きな参画にかかっている。

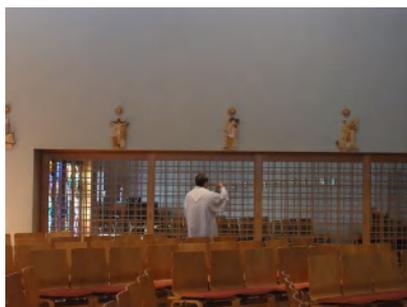
篤志家による十字架の道行贈呈の感謝と祝別式

2014 年 2 月 26 日 11 時より寄贈して戴いた新しい十字架の道行の祝別式が行われました。大勢の方々がこの祝別式に預かり、参加された方々と共に祝別式の後、新しい十字架の道行の前で、ともに祈りを捧げました。

特別な木材を使って造られた十字架の道行は、当教会の篤志家により一年半をかけて製作され、そして寄贈をして戴いたものです。また製作者により当教会聖堂カラーに合わせて、素材を生かしたシンプルなモノトーンにまとめて戴きました。

2014 年 2 月 18 日専門業者によって、殺風景だった聖堂内の壁に取付けられ完成しました。六甲教会の皆様には今年度の四旬節だけでなく、時間の許す限り自由にこの新たに取り付けられた十字架の道行を用いて祈り、個人の信仰を深めると同時に、喜びと共に祈って戴くことを期待しています。

祈りを込めて 主任司祭 松村信也 sj



2013 年度小教区拡大評議会（2月8日）議事録

日時：2月8日 10:00より13:40 場所：イグナチオホール

出席者：主任司祭 助任司祭 評議員 のほか地区役員を含めて計38名

■ 報告事項

（1）神戸地区評議会報告（小林）

大阪大司教区・神戸地区宣教評議会・東ブロックと六甲教会との関係について、また「つながり」の発行母体の説明があった。（関係図解が2014年度の教会のしおりに掲載されます）

（2）行事報告

- ・クリスマス（新年）のミサの参加者数と反省点についての報告。（河野）
- ・新成人祝福式と教会新年会についての報告（詫）

（3）施設管理部年次計画について（久本）

12月の小教区評議会で決められた、大聖堂の屋根の補修工事についてその必要性と、そのことだけでは根本解決にならないことの報告がされた。

（4）地区会・各部会などからの報告・新年度役員の紹介

- ・地区会 掃除当番・しおり配布の分担、役員の交代についての報告。
クリスマスと聖土曜日のミサ後のお茶のサービス再開についてなど（川合）
（地区役員会からの報告参照）
 - ・典礼部 四旬節のお知らせ・聖体奉仕者の集いなどの予定について（河野）
オルガンチームの位置づけ、「オルガンメディテーション」を「祈りと音楽の集い」と名称変更し、年6回の予定であること。メンバーの増員募集について。（清水）
 - ・宣教部 春・秋の黙想会（Fr.高山）と9月の聖書講座（Fr.雨宮）、結婚準備セミナーについての説明。（佐久間）
 - ・社会活動部 炊き出しや「ふれあい広場」「ベタニアの集い」などのボランティア活動の紹介 勉強会の企画・開催など（小西）
 - ・広報部 教会報・しおり・案内パンフレットの発行 HPのアップ（木藤）
 - ・施設管理部 教会内の施設修理や園芸などの業務紹介とスタッフ募集について（久本）
 - ・財務部 予算と決算のまとめが仕事（山縣）
 - ・墓地委員会 長峰墓地の維持と管理を行い、現在までの補修工事の説明がされた。代表は福田氏。（藤原）
- #### （5）主任司祭から
- ・教会の財務状況について 年々収入が減少しつつあるが、何とかやりくりし現状維持。
 - ・大聖堂の十字架の道行きを、この四旬節を前に取り付けをする。
 - ・人事異動：

4月に主任と助任の両司祭が同時に交代になります。松村神父は長崎の黙想の家、片柳神父は宇部・小野田・高千穂の主任司祭。後任の主任は麴町教会からアルフレッド・セゴビア神父が、助任は釜ヶ崎・旅路の里の高山親神父が来られます。

■ 審議事項

（1）2014年度小教区評議会予算編成について（山縣）

上記の聖堂補修工事を行うので、前年よりアップの予算案が承認された。

（2）2014年度教会年間行事カレンダー（木藤）

各部からの行事予定等を調整し、しおりの行事予定表が決定された。4月27日に司祭歓送迎会がある。片柳神父については13日に「お別れの集い」を行う。

しおりは1,200部印刷する。

2013 年度第 6 回地区役員会（2014 年 2 月 2 日）議事録

- 1 “教会新年会、新成人お祝い会”について（灘北 1・北・三田）
 - ・転入された方々、受洗された方々への新年会出席の案内が不徹底で大変申し訳なかった。
 - ・新成人の皆さんには、夫々に力強い抱負を語って頂いた。
- 2 教会行事担当チームの確認
 - ・2014 年度掃除当番表作成と印刷 詫さん、佐伯さん、井川さん、森川さん
 - ・2014 年度版教会のしおりと連絡網の配布 川越さん、大橋さん
 - ・教会清掃当番表は教会報 3 月号に差し込み配布する。
 - ・教会のしおりと地区連絡網の配布は 3 月 2 2 日からの実施の予定。
- 3 地区会名簿、メールシステム登録の管理について
 - ・信徒の転入転出等の名簿管理について教会事務所（担当：小林さん）にお願いすることになった。異動があるごとに事務所より各地区・グループに連絡いただける。
- 4 新年度の各地区連絡網について
 - ・地区毎の直近の名簿とメールシステム登録表は教会事務所（小林さん）から各地区・グループ長宛て 2 月 10 日に送付される。
 - ・新しい連絡網は可能な限り変更部分（頁）の差し替えで対応出来ないか。
- 5 各地区・グループでの役員交代について（敬称略）
 - 灘 北 1： 退任（詫）→ 新任（木村）
 - 灘西・中央： 退任（佐伯、江本）→ 新任（中村、中村）
 - 東 灘 北 1： 退任（志田、磯井）→ 新任（塚崎、塩飽）
 - 以上以外の地区・ブロックでは役員交代はなし。
- 6 クリスマス、ご復活ミサ後の“お茶サービス”について
 - ・4 月 1 9 日（土）復活徹夜祭（19 時）終了後“お茶のサービス”を行う。
 - ・クリスマス（イブ）については、季節、駐車場等の問題もあり検討事項とした。
- 7 小教区拡大評議会について
 - ・2 月 8 日（土）10：00～ 地区役員も可能な限り出席してほしい。

松村主任司祭から

地区会は教会のベース、共同体のベースである。皆お互いに手を携えて繋がりをもって神様が望まれる共同体を構築して行って欲しい。

次回地区役員会（2014 年度第 1 回） 2014 年 4 月 6 日（日）11：15～

下記の通り司祭歓送迎会を催します。皆さんよろしくご予定ください。

- ★ 4 月 1 3 日（日） 片柳神父様の送別会 10 時ミサ後 イグナチオホール
- ★ 4 月 2 7 日（日） 松村神父様の送別会・セゴビア神父様、高山神父様の歓迎会
10 時ミサ後 イグナチオホール

松村神父様、片柳神父様 長い間ありがとうございました。
セゴビア神父様、高山神父様 どうぞよろしく願いいたします。 地区会 川合

神さまからの宿題

～希少難病FOP（進行性骨化性線維異常形成症）と闘う母と子～

蛭田

私がこの親子のことを知ったのは、芦屋教会の信者さんからでした。FOPは200万人に1人という難病で、筋肉の中に骨ができていき、その為に背中が変形したり、手や足などが動かしにくくなったりする病気です。日本には推定60人くらいの患者さんがおられるそうですが、この母子はiPS細胞の研究でノーベル賞を受賞された山中教授の研究所が、1日も早くこの病を治すための薬の開発と実用化を望んでいます。

FOPを患っている山本育海君（愛称いっくん）は明石に在住し、小学校、中学校とも一般生徒の通う学校に通い、現在は明石市内の商業高校に通っています。しかし、学校生活も痛みの為に荷物も体操も服を着ることすら困難で、先生、クラスメート、そして父兄の支えによって今日まで来られました。そんな苦しみの生活の中で、彼にとって学校は生き甲斐なのです。

先日、私は彼のお母さんにお会いする機会がありました。母子家庭の為に並々ならぬ努力をされているお母さんの話によると、いっくんは夜寝るのが怖いそうです。何故なら目が覚めた明日は更に身体が動かなくなっているかも知れないからです。お母さんにとっては、いっくんの笑顔が救いで「今まで頑張ってきたのもこれがあるからです。」としみじみ語られていました。

現在、彼とお母さんが書いた「神さまからの宿題」という絵本（500円）や本（1,200円）そしてCD（500円）が売れると、その売上の1部はiPS細胞研究所に寄付されます。

私も微力ながらFacebookを通じてこのことを書いたら、北海道や関東、京阪神のFB友から本の購入や温かいメッセージをたくさん頂きました。また芦屋教会の信者さんたちに同行し、先日、夙川教会の梅原主任司祭をお尋ねしたら即絵本100冊を購入していただきました。

いっくんの「神さまからの宿題」本当に難しく、容易に解けない宿題ですが、世界には他の難病でも苦しむ人がたくさんおられます。iPS細胞の開発により早くいい治療方法が見つかり、難病で苦しむ人たちの助けになることをただただ祈るばかりです。

一人一人の力は微力であっても、輪が広がれば大きな力と支えになります。今回このことを通じて私自身それを強く感じました。神さまからの宿題を力合わせて解いていきたいものです。

詳細はFOP明石事務局のホームページ <http://www.fop-akashi.jp> をご覧ください。

問い合わせ先はFOP明石事務局 明石市魚住町西岡197-3 Tel 080-3775-2257



「神さまからの宿題」絵本、本、CD



いっくんのお母さん（右）と事務局副代表

《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📖 三日月会

3月17日(月) 例会

📖 典礼部

3月15日(土) 典礼部会 10:00

📖 中高生会

3月24日(月)～26日(水) 練成会

📖 施設管理部

3月23日(日) 連絡会 10時ミサ後

📖 教会学校

3月8日(土) 終業式・卒業式
9日(日) プチトマト公演
15日(土)～16日(日) 高学年練成会

📖 広報部

3月29日(土) 教会報印刷



《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★ 社会活動部より★

3月5日(水) 10時

♪手芸の集い

8日(土) 10時

♪炊き出し (イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて配食や、おじさん達のお話し相手だけでもOKです。

15日(土) 9時30分

♪ともしび ケーキづくり (お台所)

16日(日) 10時ミサ後

♪ふれあい広場 (イグナチオホール)

お弁当・食料品・手作り作品等

20日(木) 14時

♪ベタニアの集い

★ 典礼部より★

「四旬節の予定表」のチラシが聖堂前のテーブルに置いてあります。お取り下さい。



教会学校 劇団プチトマト 公演

自然災害や恐ろしい犯罪の数々、だましたりだまされたり……
世の中ちっともよい事がないみたいに思えます。人の心は腐ってしまったのでしょうか。
この世は真っ暗なののでしょうか。

でも忘れてはいけません。月のない暗い夜空に、宝石のようにちりばめられている、
小さいけれど力強い光！そう、星たちです！

あなたの心の中に、そんな光はありませんか？探してみましよう。心の中の星を！

★ 公演日時：2014年3月9日(日) 午前11時15分～

★ 公演場所：カトリック六甲教会 イグナチオホール

ミサの後のひと時を教会学校の子供たちと過ごしていただきたいと思います。
どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。入場無料です。



2014年2月に入った図書から

- ☆ 回勅 信仰の光 —— 教皇フランシスコ カトリック中央協議会
前教皇ベネディクトが書き始め、現教皇が書き上げた昨年6月に発表された回勅。信じる者の歩みとして信仰の姿を聖書を通じて確認し、認識としての信仰を考察し、教会と社会における信仰のあり方・意味を説く。真理が危機に瀕する現代において孤立した自我から広い交わりへと促す。
- ☆ ユスト高山右近 いま、降りていく人へ —— 古巣 馨 著 ドン・ボスコ社
本書は人々の中に生きたイエスを学ぶ右近というテーマを前面に打ち出しています。高い大名の位から落とされて、平凡な日々をキリストへの愛と隣人への愛に生き抜く右近の姿をあまねく映し出しています。・・・いかなる事情に生きようとも決して失ってはいけないものを語っています。天より下って人の姿をとり、人々の間に生き、人々から捨てられ、十字架につけられて死に、三日後に復活したキリストの姿とだぶらせて高山右近の生涯を観想するように著者は読者に呼びかけています。（巻頭 溝部司教「イエスを学ぶ右近」より）
単なる歴史の事件の羅列や、論争する論説でもなく、信仰の視点にたって わかりやすく書かれています。
- ☆ 人生を祝福する「老い」のレッスン —— バレンタイン・デ・スーザ 著 幻冬舎
10年程前に六甲教会の助任されていたバレンタイン神父さんの高齢者への講演をまとめ、加筆されたもの。穏やかな人生を、ポジティブに生きていくための「老い支度」のすすめ。あなた自身を大切に。「自分」を手放し、「あるがまま」を受け入れ、前を向いて歩みなさい。今からすぐに手をつないで温かみを感じ合ってください。・・・
みなさんの「老い」の中には、次世代へ伝えるべき宝物が眠っています。
- ☆ 旅する長崎学 キリシタン文化Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ —— 長崎文献社
長崎県の企画による長崎のキリシタン文化を紹介するA5判オールカラー64ページのシリーズ。Ⅰ～Ⅳは、五野井隆史先生、デ・ルカ・レンゾ神父、Sr.片岡瑠美子（長崎純心大学教授）の監修。
Ⅰ. 長崎で「ザビエル」を探す
Ⅱ. 長崎発ローマ行き、天正の旅
Ⅲ. 26 聖人殉教、島原の乱から鎖国へ
Ⅳ. 「マリア像」が見た奇跡の長崎
Ⅴ. 教会と学校が長崎の歴史を語る
写真と地図、わかりやすい解説で キリシタン時代の長崎への案内書。
- ☆ <個>の誕生 キリスト教教理をつくった人々 —— 坂口ふみ 著 岩波書店
☆ 信徒の時代 —— HS ブレーニャ 著 新世社
☆ 共に歩む旅 —— オズワルドハーマー 著 サンパウロ
☆ 開かれた教会をめざして NICE 1 —— 中央協議会
☆ 成熟した教会 —— ヘネロン・M・フローレス 著 新世社

お知らせ

カトリック六甲教会オルガンメディテーションシリーズ Vol.10

Organ Meditation

～四旬節の祈り～

2014年3月8日(土)

5:00 p.m.

於 カトリック六甲教会主聖堂
入場無料

午後7時より四旬節第1主日のミサがあります。
どうぞ、遠慮無くご一緒に参加して下さい。

プログラム

A. カンブラ 「鹿が谷川の水を蒸いあえぐがごとく」
G. B. ベルゴレージ 「スターバト・マーテル」より
J. S. バッハ 「ヨハネ受難曲」より
H. シヤイデマン
「イエス・キリスト、我らの救い主、我らから神の怒りを取り去り給え」 ほか

出演
浅野純加 (ソプラノ / カトリック六甲教会)
谷崎加奈 (ソプラノ / カトリック香里教会)
三浦優子 (オルガン / カトリック六甲教会)

主催 カトリック六甲教会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 TEL: 078-851-2846 FAX: 078-851-9023
<http://www.rokko-catholic.jp>

SIGNIS JAPAN 第19回「教会とインターネット」セミナー
「インターネットが拓く新・福音宣教Ⅷ」のご案内

SIGNIS Japan はこれまで「教会とインターネットセミナー-インターネットが拓く新福音宣教-」を東京近辺で開催してきましたが、第19回のセミナーは神戸で開催することいたしました。それはSNSを巧みに使いこなされている方が関西に多いことに気づいたからです。
FacebookやTwitterなどソーシャルネットワークによって福音を伝えることはどういうことなのか、どのようにしたら福音的に使うことができるのかについて、その目的のもとに先進的な試みを通じておられる方々とともに自由に考える機会を持ちたいと思います。
このテーマにご関心をお持ちの方のご参加を期待してやみません。

日時 2014年3月15日(土)
午後2時～午後6時(のち懇親会)

テーマ 「インターネットが拓く新・福音宣教Ⅷ」

プログラム

13:30 開場
14:00 開会
14:15 SIGNIS 発題
「Social Network が拓く可能性」
14:40 講演
「デジタル大陸での宣教-Facebook、Twitterの活用-」
片柳弘史神父(イエズス会・カトリック六甲教会)
15:40 休憩
16:00 パネルディスカッション
パネラー 川柳 裕明神父
(大阪教区)
片柳弘史神父
(イエズス会)
波勢邦生氏
(キリスト教ネットメディア研究会)
こいずみゆり氏
(音楽家)
司会 土屋 至
(SIGNIS Japan)

17:30 閉会
18:00 懇親会

会場 カトリック神戸中央教会
〒650-0004 神戸市中央区中山手通1丁目28-7
JR. 阪急、阪神三宮駅より北へ500m 徒歩10分

定員 100名

主催 SIGNIS JAPAN
後援 神戸地区宣教科牧評議会



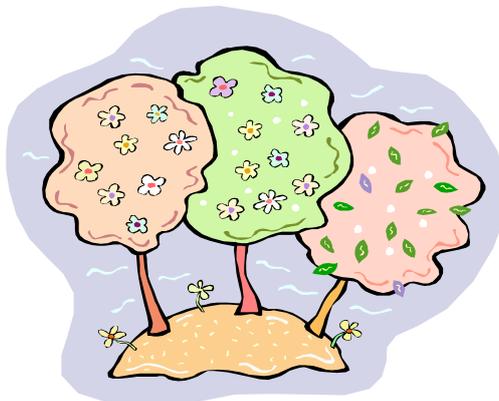

司祭人事異動

4月に主任と助任の両司祭が同時に交代になります。

- ・松村神父は長崎の黙想の家、片柳神父は宇部・小野田・高千穂の主任司祭。

後任の司祭として

- ・主任司祭は麴町教会からアルフレッド・セゴビア神父。
- ・助任司祭は釜ヶ崎・旅路の里の高山親神父。





みんなの広場

"OREMUS"

ヨハネ 三好

"Oremus" "Flectamus genua" "Levate" 嘗て聖金曜日の各階級のための祈りで繰り返されたこの言葉、"祈りましょう" "跪きましょう" "立ちましょう" はそのままわたしたちの日々ではないか。

互いに通じ合う言葉がバベルの塔以来、発破も効かない強固な壁になった。新たなところへ御言葉を伝えようとする先ずこの強固な壁が立ちはだかる。"大日"を転用しようとしたらとんでもないことになってしまった。"神様"は自分のファン"お客様"でもある。ある人たちは死語のなかから"天主"といううまい言葉を見つけた。万策尽きた人たちは"デウス様" "ゼズス様"と原語を転用した。言葉にはそれぞれ固有の意義があるから、さらに時代によって異なることもあるからうっかり転用すると思わぬことになる。

こと面倒と"天主"は厄介な言葉ばかりでなく目で見え、手で触れるものでも示される。マリアは受けたことを「すべて心に納めていた」。ヨセフはあつてはならないことをも教えられたとおりに受けて立った。一人一人が自分の受けたものを心に納め立ったとき、もう十分だと示したものを取り去られる。他のことにも使おうと。

3月、四旬節に入る。3月25日には"神のお告げ"を憶う。19日にはヨセフを思い起こす。

この稿を推敲中にコリンズ神父がミサの説教で問われた。

"お前は光か" "お前は塩か" "Oremus" "Flectamus genua" "Levate" が改めて思い浮かんだ。

編集部員のつぶやき

3月の声を聞くと、春の穏やかな日差しが眩しく、木々の芽も膨らみ始める。

今年は3月5日(水)灰の水曜日から四旬節が始まるが、またこの時期は人の異動の季節。

当教会も松村主任司祭、片柳助任司祭が同時に異動されることが発表された。10数年ぶりに日本人神父さんが不在となり、春の到来と共に教会の雰囲気も変わるのだろうか。

本当にお二人の神父様お疲れでした。この数年間いろいろお世話になりました。新しい赴任地では健康にご留意され、益々のご活躍をお祈り致します。

新年度を迎えるにあたり、広報部も心機一転、更にいい情報紙にしていきたいと思っておりますので、更なる皆さまのご協力、ご指導をよろしくお願い致します。(T.H)

教会報4月号の発行は、3月30日(日)です。

編集会議は3月23日(日)です。

記事原稿は、3月16日(日)正午までに信徒会館
受付へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21

電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6

発行責任者 松 村 信 也

編 集 広 報 部